

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2004

1/1

No.858 毎月1日発行

ロケ隊、歓迎します。

歴史と文化が美しく調和したまちを
撮影にお使いください。

～西さがみ連邦共和国フィルムコミッション
まもなく設立一周年～



小田原の未来を語る

新しい年の始まりです。2004年は小田原にとって、どのような年になるのでしょうか。
今年の抱負、まちづくりの展望を小田原を代表する二人に語っていただきました。



小澤 良明
【小田原市長】

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、市民の皆さんの幸せを願うとともに、今年もまた、小田原のために全力投球していこうと、気持ち新たにしています。

小田原の未来の姿に責任をもつ

社会環境は依然として混沌^{こんとん}としており、まさに変革期の真っ只中にあります。進む少子・高齢化、迫りくる人口減少時代、社会保障システムの改革など、大きな課題が数多くあります。こうした中、この混沌の時代をいかに乗り越えるかだけでなく、その先までをも見据えた、しつかりとした展望を描き、未来に責任をもちたいと考えています。いまは10年、30年、50年先の未来に小

田原があるべき姿を実現するために、「混沌の畑を耕している」状況なのです。種をまき、水をやり、一部の芽が出始めたところ。少しずつ本市も、変化への予兆、発展への予兆が見え始めてきました。

自立した地域社会の形成に向け

地方分権が本格化する中、時代を一步先取りした施策を、さまざまな分野で積極的に展開していきたいですね。そのために、行政の透明性、市職員の

政策形成能力をさらに高めるとともに、市民参加をより一層進め、市民の皆さんと一緒に、自立した新しい地域社会をつくっていききたいと思っています。

折しも、昨年から始めた、平成17年度にスタートする市総合計画「ビジョン21おだわら」の後期基本計画の策定作業では、市民のかたがたの意見を反映させるために設置した、「市民提言会議」のメンバーが熱い議論を展開しているところです。

うるおいとやすらぎのあるまちづくり

財政状況の厳しい中、小田原駅東西自由連絡通路や小田原アリーナをはじめ、数々のハード事業に力を注いできました。洗練された都市空間は、どれもが当たり前のように望んでいます。その一方で、うるおいとやすらぎのある癒^いしの空間が求められています。「大自然の中の山小屋でも、ハイビジョンテレビを楽しみたい」というような。これまでの施設整備は、今後のソフト事業への基盤づくりだと考えています。

ここ数年、人々の価値観も大きく変化しました。画一性の時代から多様性の時代となり、一人一人がよりよく生きていくために、市として何をすべきか。皆さんの多種多様な声を把握しながら、行政として優先順位を決定し、期待にこたえていきたいですね。「鳥の目で世界や未来、理想を見て、蟻^{あり}の目で市民の皆さんが何を望んでいるのかを的確に把握する」。山積する課題を解決していくため、今年も全力疾走です。

地方の時代の幕開けに

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さんにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

**地方分権が進む中
地域の特色を
生かしたまちづくりを**

昨今のわが国は、長引く景気停滞の中、好転の兆しが見え始めたとはいえ、状況は依然として厳しく、財政再建、雇用対策、外交問題など、さまざまな重大な課題に直面しています。

このように国全体が激動する中でこそ、国家の基礎である地方自治体は、

時流に惑わされることなく、大局的な観点から、物事の本質を見極めた判断を下さなければならず、私も市政に携わる者として、その責任の重さを強く感じています。

現在、国の政策により、市町村合併をはじめ、地方分権が推進されていますが、私たちのまちも、この地域の特色を生かした、独自のまちづくりを進めていくことが求められています。

**広域的な連携で
「足柄平野のまちづくり」**

私たちが住む足柄平野は、酒匂川を中心とした豊かな自然の恵み、温暖な気候、そして千年を超える悠久の歴史など、かけがえのない財産があり、そして、この地域の各市町には、それぞれの努力により、素晴らしい施設が数多く設置されています。

これからは、環境、消防、生活、文化など、行政が関与するさまざまな分野において、広域的な連携を持った施策を考え、進めることが必要です。そのために、私は「足柄平野のまちづくり」という、県西二市八町による広域的な観点からのまちづくりも必要であると考えています。

**だれもが愛し、だれからも
愛されるまちとなるように**

今後は、人と人とのつながりを持つことを大切にし、「交流」というキーワードのもと、住民、行政、議会が一体となつて、お互いの理解を深める事業を充実させ、みんなでこの地域の将来の姿を議論し、考えていくべきだと思います。

現在、市議会としても、市町村合併問題調査特別委員会、小田原駅周辺問題調査特別委員会などを設置し、さまざまな角度から広域的なまちづくりについて協議していますが、今後も、私たちのふるさとを、だれもが愛し、だれからも愛される郷土愛に満ち溢れたまちとなるよう、精一杯努力していきたいと思います。



大野 眞一
【小田原市議会議長】

小田原駅に駅ビル

JR東日本が平成17年開業へ



駅ビルイメージ図

④ 広域交流拠点整備課 ☎ 331653

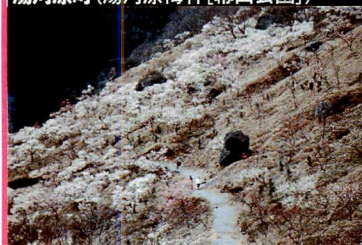
小田原駅東西自由連絡通路アーケードの整備に伴い、旧駅舎が解体された敷地に駅ビルが建設されること、JR東日本から発表されました。

駅ビルは、昨年12月20日に開通したアーケード東口階段部を包み込む形で建設されるもので、ファッション、食料品・雑貨、飲食、サービスなどを組み合わせたテナントミックスによる商業施設が計画されています。

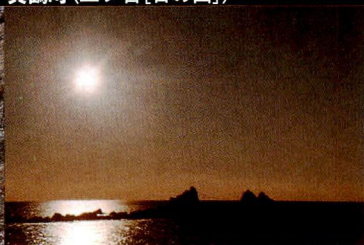
敷地2,900㎡、延床13,400㎡、店舗6,400㎡の規模で、鉄骨造による地上5階。今年春から着工、来年夏ごろにオープンし、平塚ステーションビル(株)(愛称ラスカ)が経営する予定です。

大型店の撤退が続いていた小田原駅の東口では、久しぶりの大規模店の出店計画です。にぎわいが戻りつつある中心市街地の活性化への追い風として期待されます。

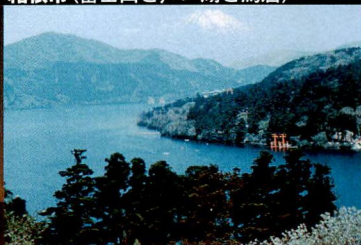
湯河原町(湯河原梅林[幕山公園])



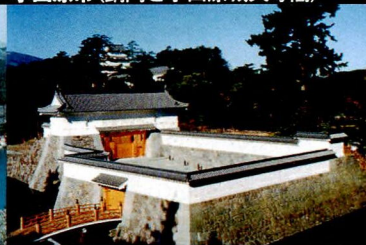
真鶴町(三ツ石[日の出])



箱根市(富士山と芦ノ湖と鳥居)



小田原市(銅門と小田原城天守閣)



小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町では、12月8日に「西さがみ連邦共和国観光交流推進協議会」を設立しました。

今、「観光振興」を核に「交流人口を拡大すること」でまちづくりを進めよう、という方向性が注目されています。また、これまでの観光名所を中心とした「点的な観光から、まちなみや暮らし振り、住民のかたとの交流など「面的なひろがり」を持つ観光交流への転換が求められています。

西さがみ連邦共和国で「観光交流空間づくり」

④ 観光課 ☎ 331521

このような中、西さがみ連邦共和国でも、交通事業者、観光関係事業者、NPOなどの民間団体、地元関係者、そして行政といった幅の広い地域関係者が参加し、地域経済の活性化や生活環境の向上、そして、さまざまな観光ニーズに応えるための地域特性を考えた観光戦略などの「観光交流空間づくり」に取り組んでいくことにしました。



12月8日に行われた「西さがみ連邦共和国観光交流推進協議会」のようす

川久保和男さん(曾我別所)



伝統芸能「曾我別所寿獅子舞」(市指定無形民俗文化財)の復活と後継者の育成に取り組まれるとともに、県西地域の民俗芸能の相互交流・発展に努められました。

鈴木由利子さん(江之浦)



「チエルノブイリ子ども基金江の浦」を設立し、被災児支援を通して平和意識を高める活動を通して、本市の国際化の推進に努められました。

平成15年度

小田原市民功労賞は

このかたがたに！

山本組雄さん(東町)



「小田原・箱根木製品フェア」を開催するなど、小田原の木製品の情報発信と木製品業界の振興・改革に積極的に取り組まれ、地場産業の振興に尽くされました。

市民功労賞は、学術・文化・福祉・産業など市民生活のさまざまな分野において功績のあったかたに贈られるもので、贈呈式は1月12日に市民会館で行われます。

問市民交流課 ☎33-1703

※なお、この賞は市民のかたからの寄付金をもとに設置した「小田原市ほう賞基金」により運営しています。

小田原市消費者の会



長年、地域の消費者活動に尽力されるとともに、環境などの新しい問題にも取り組まれ、市民の意識啓発に努められました。

おだわら手作り絵本の会



幼児から大人まで楽しめる「手作り絵本」の技術の研さんと、その普及に努められ、市民文化の振興に尽くされました。

小田原 彩時記

小田原の未来に 提言！

～市民提言フォーラム開催～

小田原市総合計画「ビジョン21 おだわら」の後期基本計画に市民の皆さんの意見を反映させるために設置した「市民提言会議」のメンバーが、11月30日(日)にフォーラムを開きました。六つに分かれた各部会がそれぞれの活動の成果を発表。その後は質疑応答が行われ、中央公民館ホールにつめかけた250人の参加者とともに、小田原の未来について活発な意見交換をしました。





学校を豊かにすれば、地域が豊かに

「学校評議員のススメ」

「開かれた学校」を実現するという、教育改革の一つとして市が設置した学校評議員制度。その全校設置も2年目に入りました。

今、学校評議員制度はどのように教育の中に生かされているのでしょうか。

問 学校教育課 331684

学校評議員制度とは

学校評議員制度は、開かれた学校を推進するために地域のかたから学校に対する意見や提言などを受けるためのもので、平成14年に全校に設置されました。

評議員は、自治会・PTA・子ども会・育成会のかたなどをお願いしています。その運営は学校によって違いますが、年に数回の学校評議員会のほか、日常的にもいろいろな提言が学校に寄せられています。

その内容はさまざま。運動会や学習発表会やバザーなども話題になります。



子どもたちの問題行動も採り上げられ、校内でのいじめや不登校、非行や事故・事件などについても報告されます。不審者の校内侵入に対しての防犯体制、教職員の綱紀粛正についても意見が出されています。

それでは、学校評議員会で出された意見が、学校現場で取り入れられた事例をご紹介します。

学校が何となく暗い。明るくしよう！

（下府中小学校）

下府中小学校のペンキ塗り大作戦は、「汚れた壁を明るくきれいに塗り替え



「きれいな学校で勉強させてあげたい」とペンキ塗りにはげむPTAの皆さん。「こんなにきれいに塗れるなら自分の家の壁もやろうかしら」との声も。

で、気持ちをリフレッシュしよう」との評議員フィスク・ブレットさんの発案から始まりました。教職員を含む50人の皆さんが協力して12月6日の土曜日に行った塗り替えは、子どもも参加してとても楽しい作業となりました。

地域全体で学校を考える

それぞれの学校の評議員のかたは、いろいろな意見をお持ちです。それらを集約する場として、評議員会があります。そこで出された意見には、事例のように学校の判断ですぐに取り入れられるものから、よく話し合いをしながら時間をかけて考えていくものなどさまざまです。学校の情報をオープンにして、地域全体で学校について考えていくことが、その地域自体を豊かなものにしていくことにつながります。学校も、今まで以上に外部からの意見を柔軟に取り入れる姿勢を整えつつあります。地域の学校評議員さんの活躍に注目してください。

政策総合研究所通信

徳運営事務局 ☎ 33 1309

11月1日から実験が始まった「地域助け合いシステム・徳」。
助け合いは、人と人のつながり。互いに見知らぬ間柄でも「助け合いの気持ち」をきっかけに知り合い、喜びと感謝の輪が広がっています。

「徳」循環中！

『なんかいいなあ…』

「まちづくりのイベントの手伝いに参加しました。連絡メールでどんな方たちかな？」と思いを探らしていましたが、徳の仲間と一緒になかするっていいなと思いました。（飯泉在住・女性）

「輪が広がります」



を得てとても助かった。縁のなかった人と知り合え、自分たちの活動を知ってもらえる機会ともなりうれしかった。（城山・まちづくり団体）

レンジの掃除、草刈り、子守り、お弁当作り、パソコンに関する質問や相談、竹トンボ作り、祝儀袋の代筆など、日常のちょっとしたことから、イベントの手伝いなど、徳のサービスの交換・循環が活発化してきています。

—こんな思いで参加しました—



お母さんの
力になりたい

北田 礼子さん
【南鴨宮在住】

3人の子どもの母として、本当にしんどくて人の手を借りたいと思ったことがありました。自分の経験を生かして、そういったお母さんの力になりたい。「徳」をうまく使えば頼む方も頼まれる方も気兼ねなく使えるのではないのでしょうか。

登録してすぐ、一緒に部屋で目の届くところでの子守りを頼みました。安心して主婦仲間との貴重な時間を持つことができました。



大勢の一步が
大切

杉本 幸恵さん
【酒匂在住】

今年92歳で他界した義母。いろいろなかたから受けた恩恵を私が「できること」で、元気をいただけたらと思いました。

高齢社会の問題は、家族の心身の負担など介護保険だけでカバーできるものではありません。大勢のかたがたが一步踏み出すことが大切で、心の温もりを少しでも提供し、大きな輪になればよいと思います。



もらった「徳」
使います

河千田 健郎さん
【市内在活动】

友人が出演するイベントの手伝いをしたら、何と「徳」がもらえ嬉しかった。自分たちが毎月第1・3日曜日に行っている、みかん畑の再生活動でも使うことにした。心地よい汗をかくて「徳」をもらいましょう。

●政策総合研究所のホームページ

どんな「できること」「してほしいこと」が寄せられているのかを見ることができます！是非お願いしたい！これなら私もできる！と思われた方、気軽に登録してください。

URL <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/prio>
メール prio@city.odawara.kanagawa.jp

登録者受付中！

「徳」の輪を広げる

情報交換&交流会

「勇気を出して頼んでみてよかった」、「頼まれると思っていなかったたので電話を受けた時はとてもうれしかった」

「徳」に登録した人は、登録者間で共有する「してほしいこと・できること」リストにある電話やEメールなどの連絡方法により依頼します。また、メー



お母さんと、みかん山再生活動に参加。竹の箸作りにも挑戦。

「徳」ってどんなもの？

人と人の善意が循環することで、住みよいまちになるのではないかと、という考えから始めた実験です。

「できること」「してほしいこと」を登録し、参加者の間で共有するリストをもとに依頼します。何かしてもらったら100徳、500徳、1000徳の紙券を相手に渡すことで、お礼の気持ちを表します。やりとりの過程は、記録簿に記録しておきます。

リングリストや登録者の情報誌「まる徳通信」ではイベントでのお手伝い募集など、活発な情報交換がされています。しかし、顔の見えない人に電話やEメールで連絡することによって不安を抱く人がいることも事実です。

そこで、交流会（12月11日（木）・マロニエ）を開催するなど、登録者同士の「顔の見える関係」づくりも進めています。「徳」を介して知り合うと、ずっと前から知っていたような気持ちで新たな話題・世界・仲間が広がっていきます。

シリーズ
チャレンジ!

中心市街地

パート
6

小田原地下街に「街かどギャラリー」が誕生。
あなたの作品で街にうるおいを

問 市民交流課 33 1706



小田原地下街の一角に、
展示スペース「街かどギャラリー」がオープンしました。



市民の文化活動の身近で気軽な「発表の場」「鑑賞の場」「交流の場」として、これまで市内の金融機関のご協力をいただいて実施してきた「街かどギャラリー」は、金融機関の壁面を彩る絵画や写真などの作品が、訪れた皆さんから、「心が和んだ」「力作に感心した」と好評です。

「もっと大勢の人が、自由に見ることが出来る場所にも設置して」という声に、小田原地下街のベルジュ側壁面の広報ケースが、常設のギャラリーとして生まれ変わりました。

縦130cm、横150cmのガラスケース三つで、これまでのとおり、絵画や写真などの平面的な作品はもちろん、少し厚みのある工芸品なども展示できます。

あなたも「小さな作品展」を開いてみませんか。

出品者募集



小田原地下街、金融機関とも出品者を募集しています。

対象 絵画、写真、工芸作品、文芸作品
など壁面展示できる作品を制作しているグループまたは個人

展示にかかる費用 無料
展示期間 2週間程度

これまでの出品例 油絵、水彩画、水墨画、写真、押し花、七宝焼、書道、ろうけつ染など

申込 随時。電話予約の上、展示内容のわかるものをお持ちください。



小田原市板橋の松永記念館や周辺の寺社を会場にした「板橋秋の交流会」が、11月22・23日に開かれまして。22日の前夜祭では、地元板橋の皆さんによる手作り竹灯ろうが松永記念館庭園とその周辺を飾り、その情緒あふれる静かな灯火に思わずため息が漏れる場面も。翌日は小田原・城下町大使によるトークをはじめ、音楽や飲食などさまざまなプログラムで大盛況。前夜祭も含め訪れた約2,000人の皆さんは、板橋の魅力に触れるとともに、それぞれの秋を満喫しました。



小田原
彩時記

秋の交流会で
情緒を満喫

「次世代育成支援対策推進法」に 基づくアンケート調査に ご協力を

問 児童福祉課

☎ 33 1 4 5 4



昨年7月に「次世代育成支援対策推進法」が制定されました。

この法律は、急速な少子化の進行や、家庭・地域を取り巻く環境が変化する中、次代を担う子どもが健康に生まれ、育成される社会をつくるためのものです。この法律により、市町村は、平成16年度中に次世代育成支援の実施に関する計画（市町村行動計画）を策定することになりました。

した。

今回、市では、この計画策定に先立つて、市民の皆さんのニーズを把握するためにアンケート調査を行います。

アンケート用紙は、小学生以下のお子さんがいるご家庭から無作為に抽出した約6,000世帯を対象に、1月中旬に送付する予定です。

お手元にアンケート用紙が届いたご家庭は、ご協力をお願いいたします。

小田原城最古の障子堀を発見！

問 文化財保護課

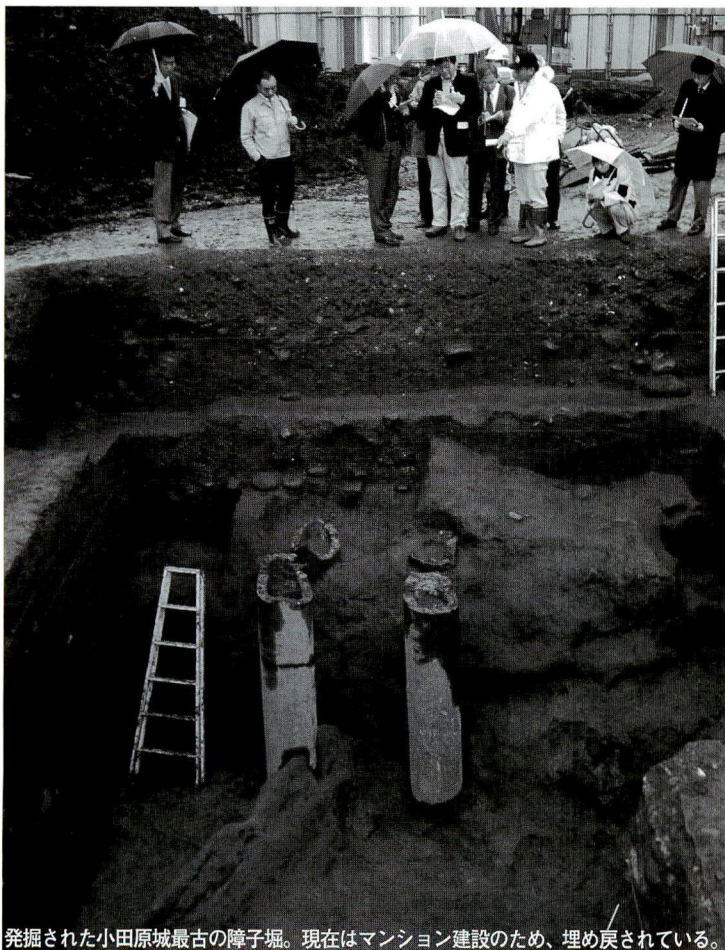
☎ 33 1 7 1 7

国道1号沿いの映画館「オリオン座」跡地から、小田原城で最も古く最大規模となる障子堀が発見されました。障子堀とは、堀底に障壁を設けた堀のことで、この障壁によって行動を妨げられた敵は、弓や槍で効果的に討ち取られたことでしょう。北条氏はこのような堀を好んで用いました。

今回発見された堀は江戸時代の三の丸堀よりも外側で、更に現在の国道1号（江戸時代以降の東海道）よりも南側

で発見されました。

また、出土した5,000点に及ぶ遺物から、これまでに小田原で見つかった障子堀よりも50年以上も前に造られた堀であることがわかりました。その時代は名高い北条早雲（伊勢宗瑞）や小田原の基礎を築いた2代目氏綱のころにあたり、これまでの小田原城の歴史に見直しを迫るきわめて貴重な発見でした。



発掘された小田原城最古の障子堀。現在はマンション建設のため、埋め戻されている。

「心豊かに共生する高齢社会」

vol.6

「高齢社会」という言葉から何を想像しますか。なんとなく不安を感じるかたもいるかもしれません。ここでは、高齢社会を安心して心豊かに暮らすために、私たちに何ができるのかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

問 高齢介護課 33 1841

高齢者の知恵と経験で地域貢献

下府中地区社会福祉協議会と矢作小学校の世代間交流

高齢化と少子化が進むなか、家族の形も様変わりし、3世代の親族が同居する世帯の割合は減り続けています。核家族化はさらに独居化へと進み、世帯規模は小さくなる一方で。

個人のプライバシーに配慮して互いに同居を避ける家族もあれば、仕事の都合などでやむなく高齢の親と別居する人もいます。

地域では、物騒な事件が身近なところ

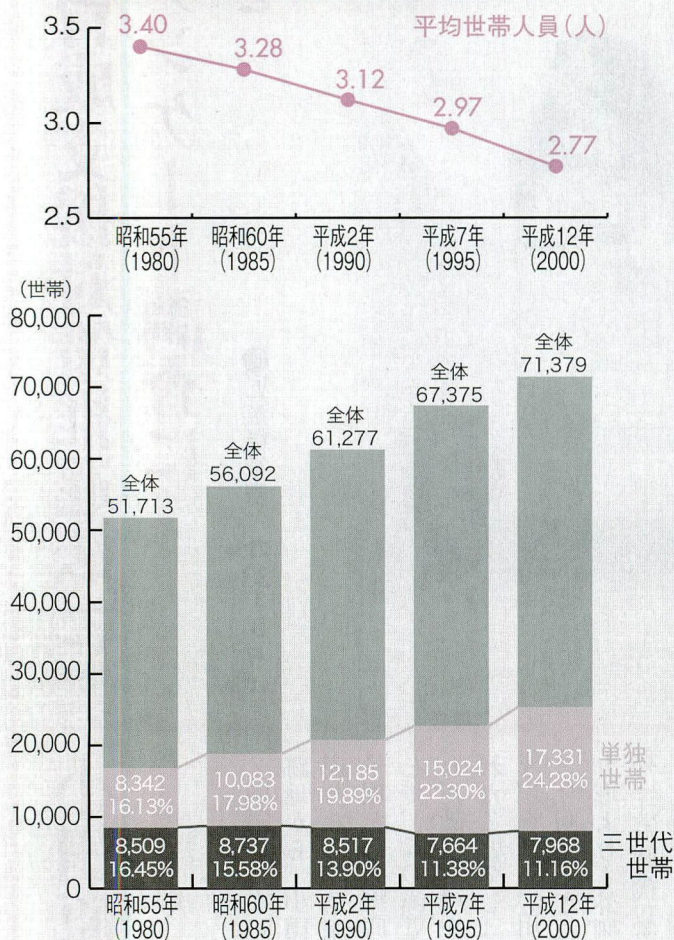
ろで起こるようになり、高齢者が

孤独に亡くなるケースが増えています。家族同士の距離が離れ、隣近所の付き合いが希薄になり、地域社会の連帯が弱まっていると感じるかたも多いのではないのでしょうか。

「何か大切なものが失われつつある」。

下府中地区社会福祉協議会長の酒匂守さんは、社会福祉活動を通じて、生活環境と暮らし方が変わってきていることを感じていました。連帯の弱い地域社会は、高齢者には特に暮らしにくいものになってしまいます。自ら高齢期を迎えた酒匂さんは、高齢者だからこそできる地域貢献があるはずだと考えました。高齢者が地域社会での自らの役割を考え行動することが、地域に活力をもたらすと同時に、自身の生きがいにもつながり、さらに高齢者の知恵

一般世帯の状況の推移(国勢調査による)





▲ゲームクラブ 遊びにも礼儀作法が大切と知る

と経験が尊重される、心豊かな共生社会をつくる、と。

そこで着目したのは、世代間の交流。これからの地域を担う子どもたちとのふれあいでした。酒匂さんは社会福祉協議会のメンバーと共に、地元の矢作小学校に、高齢者と子どもたちとの交流の計画を持ち込みました。「教えてやるという姿勢では疎まれるだけ」と、子どもたちを教育する指導者としてではなく、まずはお互いが学び合う交流会として計画を立てました。



▲工作クラブ 切り出し刀を初めて使う子どもも多い

でもらう事業が動き出したのです。地域では参加する高齢者を、学校では参加する児童を募集し、昨年10月27日、「お年寄りとクラブ活動を通じた交流会」が開かれました。17人ほどの高齢者が、三つのクラブ活動に分かれて「混ぜて」もらい、ゲーム、工作、調理と、それぞれの活動が展開されました。ふだん高齢者と接する機会のない子どもも少なくありません。初めは少しぎこちなく始まった交流会も、1時間余りの活動が終わるころには、なごやかな温かい雰囲気になりました。



▲手芸・料理クラブ ペッ甲飴の甘さはやさしく懐かしい

のかたがたも子どもにも活力をもらったのではないかと交流会を締めくくりました。

酒匂さんも、初めての試みに手ごたえを感じたようです。「今後もプログラムを充実させて、他の小学校にも活動を広げていきたいし、自治会や老人クラブなどの地域団体の協力もいただきながら、交流を深めたい」と話しました。

急速に姿を変えていく地域社会。大家族と地域内連携を前提としていた社会のありさまが、サービスや価値観の多様化に伴って変わっていくことは止めようがありません。新しい形の地域社会を温かさで満たすためには、どうすればよいのでしょうか。地域の高齢者自身が経験と知恵を発揮した交流会では、世代を超えた新しい絆が生まれていくことが感じられました。



高齢者だからこそできる
地域貢献があるはず

酒匂 守さん(下府中地区社会福祉協議会長)

「私たち社会福祉協議会のメンバーが学校を訪ねたとき、学校職員やPTAのかたが非常に協力的で、本当にありがたかったですね。お互いに刺激になったと思いますよ。私たち高齢者も子どもたちから何かを学びとっていると思うし、子どもたちには、命の大切さやお年寄りを大事にすること、礼儀、あいさつなどを学びとってもらえたらと思っています」と酒匂さん。

酒匂さんたちの活動は、核家族化が進み、高齢者とのかわりが少ない今、世代を超えた同士が互いに触れ合える有意義な場を地域にもたらしめているようです。その成果は着実に得られていて、高齢者の知恵と経験が生かされているのだと感じました。

また平成12年には、やはり子どもたちとの交流を目的として小学校で開いたパソコン教室で、子どもたちが先生になり、学校とは逆の立場でパソコンの使い方などを高齢者に指導するという試みを取り入れました。教えたり、教えられたりの逆の立場に立つということ、子どもたちが生き生きし、自立心も育めたのでは、と酒匂さんも手ごたえを感じたようでした。参加したメンバーたちも、教室の後で反省会を開き、皆さんの感想や意見などを交換し合いました。このときの取り組みが、今の酒匂さんの活動の原点となって生き続けているのです。

今は地域社会が都市化の波に迫っているといけず、地域で助け合って生きていくという連帯感を持つことが難しくなってきたのが現実です。しかし、このように悩みを持ちながらも模索し、一つの方向性を見出していこうという動きが、世の中に必要な時期に来ているのだ、と実感しました。

世代を超えた交流で 子どもが学べ、子どもにも学べ

前ページで紹介した下府中地区社会福祉協議会長の酒匂 守さんに、市民の皆さんからの公募による広報リポーターがお話を伺いました。



広報リポーター
野田 明子さん



小田原

彩時記

荻窪保育園が
自治体消防記念式
典で表彰

東京で開かれた自治体消防55周年記念式典で「優良幼年消防クラブ」として荻窪保育園の幼年消防クラブが表彰されました。日ごろから消防出初式や火災予防運動などに参加している活動が評価されたもので、園児たちも小田原の防災に一役買ってくれています。

園児たちは、12月3日(水)におそろいのほっぴ姿で市長に受賞を報告し、自分たちが描いた消防車の絵をプレゼントしました。

小田原の歴史

市内の遺跡から発掘される数多くの出土品。これらをよく調べると、当時の文化や生活のようすが分かってきます。これら小田原の歴史を見てきた証人ともいえる出土品の中から、特に重要なものをシリーズで紹介します。このコーナーで紹介した出土品は、その月に郷土文化館で特別に展示します。

問 文化財保護課 ☎33-1717

平安時代の末、武家の中には公家以上の権力を持つものが現れました。その代表が源氏と平氏です。平氏の棟梁平清盛は、武家として初めて太政大臣にまで登りつめ、市内石橋山で兵を挙げた源氏の棟梁源頼朝は、鎌倉に幕府を開きました。武士の世の始まりです。

そのころ市内には、中村氏や曾我氏などの武士団がいました。彼らの活躍は『吾妻鏡』などの書物にも記され、中村氏の居館は小竹に、曾我氏の居館は曾我にその伝承地があります。その他にも、市内には歴史上に名を残していない多くの武士が存在していました。市内小船や久野、下堀では武士たちの痕跡を示す遺物が見つかっています。このような人々の存在は、発掘調査の成果によって初めて明らかになったものです。今回は、そのような名もない武士たちに関する出土品を紹介します。



中世集石墓のある久野丘陵地(遠景)

参考文献

- 小田原市『小田原市史通史編 原始・古代・中世』
- 小田原市教育委員会『小田原の文化財』
- 小田原市教育委員会『平成12年度試掘調査』小田原市文化財調査報告第107集

集石墓

13世紀前半から中ごろ(鎌倉時代)に多く造られたお墓で、主に人の頭ぐらの石を用いて区画し、内部にも石を敷き詰めて蔵骨器を埋納したもの。

吾妻鏡

鎌倉幕府が編纂した歴史書で、日記の形態でその日の出来事を記しているもの。治承4年(1180)から文永3年(1266)までのことが記されている。



三筋壺

高さ24.4cm、最大幅18.7cm、12世紀後半

愛知県常滑市などで焼かれた壺で、胴体に3本の筋が入っているものが主であるため、三筋壺と呼ばれています。お経を納めて埋納したり、火葬した人骨を納めた蔵骨器(骨壺)として用いられた特殊な容器でした。このような特殊容器を用いることができるのは、武家以上の身分の人物と思われます。市内では、久野や下堀、早川から同様の壺が出土しています。写真は、下堀宮ノ脇遺跡で出土した常滑焼の三筋壺です。土師質の椀で蓋をされた状態で出土しましたが、中は空洞で何も入っていませんでした。



甕

高さ64cm、最大幅70.2cm、13世紀中ごろ

これも同じく常滑焼です。常滑焼は平安時代の終わりごろから焼かれ、日本各地に流通しています。主に貯蔵用として用いられていたようですが、写真の甕は蔵骨器として用いられていました。

昭和26年(1951)に久野にある市指定史跡の中世集石墓から出土したもので、詳細な出土状況を示す資料はありませんが、多量の火葬骨が出土したとのこと。丁重に埋葬されていることから、やはり武家以上の身分の人物が埋葬されていたと思われます。

食と文化のイベントで 小田原のさかなの魅力を再認識！



11月29・30日の両日、小田原TMO（商工会議所）により、小田原のさかなをテーマにした「小田原三茶人が愛した『さかな・食匠のまち』」が開かれました。このイベントは、本市の歴史・生活文化に欠かすことのできない、「さかな」にこだわり、その良さを再認識することで小田原の魅力を高めようといわれたもの。

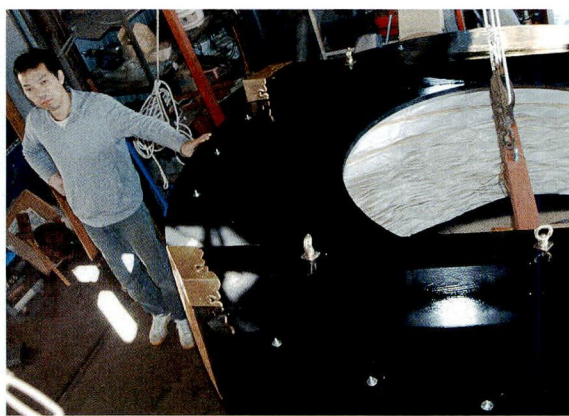
小田原地下街では、「さかな・食匠スタジアム」と題し、11月12日に行われたアジやヒラメを使った創作料理コンテストの優秀作品が披露され、試食や販売が行われました。

また、第2会場のなりわい交流館も、いま話題の小田原おでんのほか、小田原近代三茶人（益田鈍翁、松永耳庵、野崎幻庵）の写真展やゆかりの講話、まち歩き会など、プログラムが盛りだくさん。小田原の新名物を味わうとともに、歴史・文化に触れ、皆さん大変満足でした。

そのほか、二つのメイン会場を結ぶエリア内には、サブ会場として、「食匠のまち・花茶席」が7か所設けられ、和菓子やパンなどを販売。二日間で、約7,500人のかたで賑わいました。小田原のさかなについて、新しい発見をされたかたも多かったことでしょう。



史上最大の小田原ちょうちん制作！



全面開通したばかりの小田原駅東西自由連絡通路アークロードに、巨大ちょうちんが飾られました。これはその制作現場の写真です。高さ4m50cm、直径2m45cmと、スケールも超特大。作業場で全体を引き伸ばすことができず、半分しか開きませんでした。制作した山崎勇さん・高史さん親子は「小田原ちょうちんは、箱根を越える人の魔よけとしても重宝されました。このちょうちんも、小田原駅を利用されるかたを守ってくれるようお願いを込めて作りました」と話してくれました。自由通路を利用するときは、ぜひ見てください。





歴史に残る映像作品を小田原から!

～西さがみ連邦共和国フィルムコミッション設立1周年～

西さがみ連邦共和国フィルムコミッションが2月1日で設立から1周年を迎えます。東京から交通の便が良いこと、バラエティに富んだ映像資源があることなどから、制作者からの撮影依頼も確実に増えてきました。

● 広報広聴室 ☎ 331261

フィルムコミッションの役割

フィルムコミッションの活動は、映像制作を支援し、映画文化の振興に寄与することです。国際機関(AFCI)に加盟しているだけでも世界31か国に約300のフィルムコミッションがあり、日本でも平成13年度に「全国フィルムコミッション連絡協議会」が発足し、各地にフィルムコミッションが設立されるようになりました。

具体的な業務は、映画やテレビドラマなどの撮影を誘致し、撮影(ロケ)場所や宿泊、飲食、機材のレンタルなど撮影に必要な情報を提供したり、スムーズな撮影が行われるように支援したりすることです。その多くは自治体や、観光協会、商工会議所などが中心になって運営をしており、小田原市でも、箱根町・真鶴町・湯河原町と協力して、昨年2月に「西さがみ連邦共和国フィルムコミッション」を設立しました。県内ではほかに、横浜市・藤沢市などが同じ組織を運営しています。

ロケ地となることで、都市イメージの向上や宣伝効果に加え、ロケ隊が滞在することによる経済効果などが期待できます。

実際に昨年2月のフィルムコミッション設立から約1年間で、ロケ隊が市内で使ったお金は、食事、宿泊、機材レンタルなどだけで1千5百万円以上ものぼります。また、番組制作費を支

払うことなく映像に小田原が紹介される宣伝効果や、撮影に使用された場所を訪れる観光客による消費など、その効果は計り知れないものがあります。

すばらしい作品はみんなの手で

なお、作品の制作には、イメージを膨らませる、優れたロケ地の提供が必要になります。小田原でも「波」(昭和27年)、「天国と地獄」(昭和38年)など、歴史に残るすばらしい作品が過去にたくさん生まれています。

制作者が求めているロケ場所は、いわゆる観光地よりも、公共施設のほか、

和風・洋風建築、ホテル、病院など人々の生活感がするものが多く、また小田原という設定ではなく使われる場合も多く見られます。したがって、撮影支援には皆さんや企業などのご協力が不可欠になります。撮影には夜間などでも多少のご迷惑をおかけすることもあります。市としても、できるだけ皆さんにご迷惑をおかけすることのないよう制作者とも協議してまいりますので、ぜひフィルムコミッション事業に協力してください。

なお、フィルムコミッションでは、撮影場所として提供していただける住居や施設、また実際に撮影に参加していただくエキストラのかたの登録なども行っています。詳しくはフィルムコミッションのホームページをご覧ください。

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/extra/extra-index.html>

「クニミツの政」

放映媒体

テレビ(フジテレビ)

連続ドラマ

出演者 押尾学、伊東美咲、佐々木蔵之介、吉岡美穂、大杉連ほか

撮影場所 間中病院、御幸の浜海岸、小田原アリーナ、小田原城、小田原漁港など市内各所



市内小学校でのシーン

映画「昭和歌謡大全集」

放映媒体

劇場公開用映画

出演者 樋口可南子、岸本加世子、細川ふみえ、池内博之、松田龍平、安藤政信ほか

撮影場所 米神漁港、早川一夜城きらめきガーデン



市漁協の協力により米神漁港で行った爆破シーン

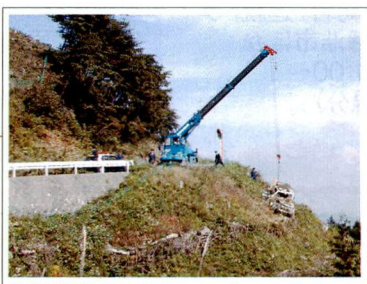
映画「黄泉がえり」

放映媒体

劇場公開用映画

出演者 草薙剛、竹内結子、柴咲コウほか

撮影場所 市内久野林道、早川のアパートほか



自動車転落現場シーン

【ここに注目!】

設立後に市内で撮影したのは29作品。最近でも依頼はどんどん増えています。番組では、放送の終わりに字幕が流れる「エンドロール」に注目してください。小田原で撮影されたものには、「撮影協力 西さがみFC・小田原市」と文字が入ります。最後まで見てくださいね。

小田原市役所総合案内
発行●小田原市役所総合案内
0465331302
2508555
小田原市狹窪300番地
広報おたわらは、資源保護のため古紙100%の再生紙を使用しています。



突撃インタビュー！ フィルムコミッション1周年に寄せて

昨年2月の西さがみ連邦共和国フィルムコミッション設立イベントの時にゲストとしてパネルディスカッションに登場していただいた船越さんが「火災調査官・紅蓮次郎③」の撮影現場で私たちにメッセージをくれました。

心におみやげ、
見つけて小田原。

西さがみは
俺が守っている…!?

俳優

船越 英一郎さん

「このドラマは本当に多くのかたに支持をいただきました。今度の作品は第3作目。これからも自分のライフワークとして、紅蓮次郎とともに歳を重ねていきたい。まちがいなく私の代表作です」と船越さん。火災調査官ならではのトリッキーな謎解きと、人間の素敵さを楽しんでください、と加えた。

土曜ワイド劇場 火災調査官・紅蓮次郎③

火災現場の灰の中から真実を突き止める火災調査官。船越英一郎さん初主演となったこの作品は、その大部分を市内で撮影し、第1・2作とも高視聴率をマーク。



さらにパワーアップした第3弾も期待大。

放映媒体 テレビ(全国テレビ朝日系列)

出演者 船越英一郎、河相我聞ほか

放送日時 2月から3月ころ(放送日未定) 21:00～

撮影場所 消防本部、小田原アリーナ、小田原漁港、市役所、マロニエほか市内各所

2月の設立イベントに参加してもう1年が経とうとしています。本当に早いものです。この地域が映像文化によって活性化することは、とても素晴らしいことだと思っています。フィルムコミッションにはぜひ頑張っていたきたいですね。

私の作品はサスペンス系が多いせいか、舞台としては殺人現場だったり火災現場だったり、必ずしもいいイメージとは言えないかもしれません。でも決してロケ地にとってマイナスだとは思いません。ドラマでは、だれもが持っている光と影の部分や、人間の持つ本来の温かさを確実に描いています。このような作品にロケ地として登場することは、本当に誇れることなのです。

私はこの地域の出身なので、愛すべき西さがみの良さを伝えるべく、日々頑張っています。実は今、私は小田原で火災調査官を、湯河原で警察官を演じているんですよ。最近ではこの地域を私が守っているという使命感すら感じています！(笑)これからも一緒に素晴らしい作品を西さがみから発信していきたいでしょう。

続々登場！ 小田原ロケ作品！

あなたのまわりにドラマがあった…!?

えなりかずきの「一休さん」

放映媒体: テレビ(フジテレビ) ドラマ
出演者: えなりかずき、石黒賢、生瀬勝久ほか
放映日時: 1月8日(木)19:00～
撮影場所: 市内小学校

NHK大河ドラマ「新選組！」

放映媒体: テレビ(NHK総合) 連続ドラマ
出演者: 香取慎吾、佐藤浩市ほか
放映日時: 2月1日(日)20:00～
(小田原収録分)
撮影場所: 小田原城

恋愛小説

放映媒体: テレビ(wowow) ドラマ
出演者: 玉木宏、小西真奈美ほか
放映日時: 2月16日(月)21:00～
撮影場所: 県立生命の星・地球博物館、酒匂海岸

修羅の道

放映媒体: 劇場公開用映画
出演者: 原田龍二、松方弘樹、渡辺裕之、小西博之、井上貴子、山下規介ほか
公開: 未定
撮影場所: 小田原城、小田原漁港、市役所ほか

世界の中心で、愛をさけぶ

放映媒体: 劇場公開用映画(東宝)
出演者: 大沢たかお、柴崎コウほか
公開: 5月8日(土)から全国一斉(予定)
撮影場所: 市内中学校